

「からだの中の構造と創造の御業」

早くも7月を迎えています。これから本格的な夏を迎え、暑さがさらに増し加わっていきますが、皆様の日々のご健康が支えられますように、また体調のすぐれない方々の上にも神様からの回復と平安がありますようにお祈りいたします。



私事で恐縮ですが、5月に全国健康保険協会(通称:協会けんぽ)が実施する健康診断(生活習慣病予防検診)を受けました。身長や体重、視力、聴力、血液検査、心電図検査、そして自分にとっては初めての胃カメラでの内視鏡検査がありました。胃カメラでの検査の際に、口もしくは鼻から内視鏡スコープを入れますので、多くの方は嘔吐感を経験することがあるとのことですが、私にはそのような嘔吐感もまったくなく、スムーズに検査が終了しました。お医者さんが内視鏡検査をしながら、私は映像画面に映し出される自分のからだの器官の内部を同時に見ることができたことが新鮮でした。お医者さんはスコープをどんどん奥に入れながら、何か気になる点があれば、途中で動きを止めて、じっくりと観察しておられました。この検査で自分のからだのことがすべて分かったわけではありませんが、今回は、食道や胃、十二指腸の一部の内部を見ることができ、やはり私たちの人間のからだというのは不思議にも精巧に、精密に神様によって造られているのだということを改めて実感した時でもありました。

牧師という働きは医者とは違いますが、人の内面に关わる働きであり、「からだ」よりもさらに内側の人間の「霊」、「たましい」という部分に关わるものです。聖書の中の第一テサロニケ5章23—24節には「平和の神ご自身が、あなたがたを完全に聖なるものとしてくださいますように、あなたがたの霊、たましい、からだのすべてが、私たちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのないものとして保たれていますように。あなたがたを召された方は真実ですから、そのようにしてください。」と書かれています。パウロは将来的なイエス・キリストの再臨のことを意識しながらこのように述べました。「霊」と「たましい」を区別する聖書学者もいれば、区別しない聖書学者もいます。恐らく区別されるものと思われませんが、いずれにしても人間は「からだ」も含めて「全人格的な存在」として造られています。そして、それら(霊、たましい、からだ)が、キリストの来臨(再臨)において、究極において保たれ、守られるという約束が、今の私たちへの慰めであり、聖書の約束です。神様は真実なお方であるということが聖書に繰り返されています。詩篇139篇の作者は神様の創造の御業について、14節の冒頭で「私は神に感謝します。」と告白しました。

私たちの「霊」や「たましい」という部分は神のことばである聖書を絶対的な基準として関わっていきます。からだやこころに関しては医者や病院によってさまざまな治療方法があると思いますし、さまざまな予防対策があります。ひと昔前はテレビや新聞、本などからしか情報を得ることしかできませんでした。今は情報があふれている時代です。さまざまな論文、データがどのように導き出され、それをどのように読むかということも医者のみならず、情報過多の社会の中で、私たちができるだけ客観的にしかも冷静に物事を見ることができればと思います(なかなか難しいことですが)。たとえば通常、臨床試験(治験)に何年もかかるようなものを短期間で済ませ、これまで実用化されたことのないものを体内に入れるとしたら、まずそれはいったいどういうものなのか、また日本のみならず海外ではどうなのか、また取り入れることによって生み出された影響や結果、健康状態・健康状況のデータなども、たとえ専門家でなくても、慎重に、丁寧に読み取ることができればと願いますが実はこれも難しいことです。

私たちのからだは実に不思議です。以前子どものために買った本で「講談社の動く図鑑 人体のふしぎ」(右上の写真)の帯紙には「小学生から大人まで楽しめる圧倒的ビジュアル」と書かれており、大人でも感心する内容です。その内容に驚くと共に、この本の中には神様について書かれていませんが、創造主なる神様を信じる者として、私たち人間のからだを造ってくださった神様の素晴らしさを実感します。聖書は、医学書のように人間のからだの解明を目的に書かれていませんが、いのちそのもの、存在そのものなどさらに根本的なことが書かれています。神様から与えられたいのち・からだであるからこそ、日々、大切にいたわり、神様の素晴らしさが表されるために用いさせていただきたいと思ひます。また自分の存在意義を知りたい、まだよく分からないという方にも聖書を通して、その存在意義といのちの尊厳をお伝えしていきたいと牧師として願っています。 国分寺キリス教会 牧師 原 — 2023年7月